

農業日本一受賞者の経営を見る！



困難、まだ畑は植境土で水掛けは良くなく、三〇糸井て掘ると青い粘土が出て来るというところである。気象条件は春は降水量少なく、四~七月は曇天雨多く、麦、なたねの収穫に困難、夏は気温高く降水量割合が多く、秋は低温が現われ、冷害の様相

武隈山系をのぞみ、西に奥羽山系をのぞむ所謂福島県の中通りと称する北部にあり、福島市より約四キ西方にある平坦な水田地帯である。そしてこの信夫村の北端に鈴木さんの家があり（第一、二図）、冬季多雪のときでも、集乳所が近くにあるので送乳に不便をきたさなく、比較的交通の便に恵まれた所です。当地の水田は沖積層で植壤土、水ものは一般によく、耕土は深いが作業は一般に困難、また畑は植壤土で水はけは良くなく、三〇歩位掘ると青い粘土が出て来るというところである。気象条件は春は降水量少なく、四～七月は曇天雨多く、麦、なたねの収穫に困難、夏は気温高く降水量割合이多い。秋は低温が現われ、冷害の様相

鈴木さんの住む信夫村は、東に阿武隈山系をのぞみ、西に奥羽山系をのぞむ所謂福島県の中通りと称する

を呈することあり、九月～一〇月は比較的の
水量の多いところです。

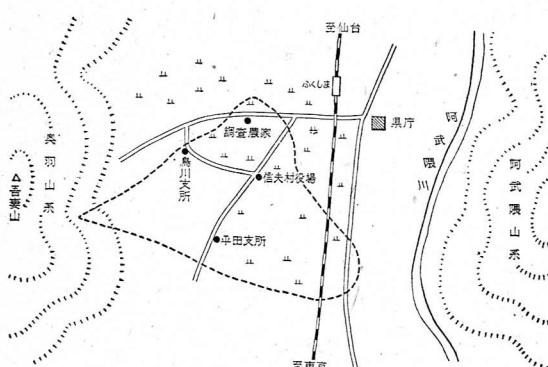
鈴木好雄氏の経営概要

水田地帯へ巧みに牧草をとり入れ成功している

水田地帯への乳牛導入は、自給飼料の確保が成功の岐路であるわけで、両氏は巧みに水田裏作、田畠輪換にと飼料作物を取り入れ、労力の省力化を計りながら、水田酪農としてより一層の経営の安定を計られた点はとくに注目すべきであります。ここに両氏の御努力に深い敬意を表すると共にその概要を御紹介いたします。(編集部)

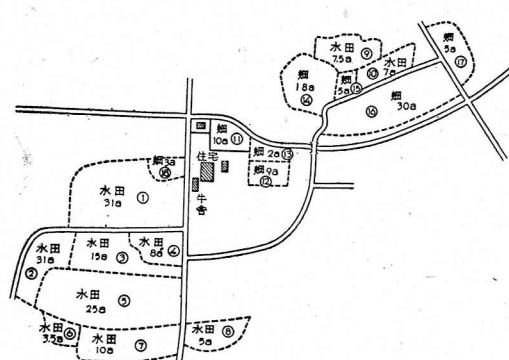
あります。

第 1 回



(-)
劳
力

農業経営の実態



第 2 図

この記録は昭和三六年度農業日本一表彰の酪農部会において優秀經營者として受賞された鈴木好

家族労働の構成および雇労力は第一表の通りです。本人は小学校高等科卒後、県経営伝習農場卒、父は村議、共済組合長等をやっている関係で経営はすべて本人にまかせられている。祖父は隠居（家族は祖父、両親、本人、妻、本人の妹弟）なお本人は鳥川酪農研究会長で酪農の推進力となつている。

第1表 家族労働の構成及び雇庸労力

区分	男	女	計	備考
家族	4	5	9	
農業從事者	1	2	3	能力換算 2.6人
年間雇庸	0	0	0	
臨時雇庸	15	15	30	{ 男 15 人は乾草調整 女 15 人は田植

第2表 経営面積

地 目	面 積	備 考
水田	120	
畑	82	(内、田畑輪換面積
果樹園	10	23 亩)
計	212	
草地	5	畝 畦

稻作、飼料作、乳牛飼育管理などの労力調整について見ると、農業総労働時間は四八三・五時間、うち耕種労働（飼料作労働は除く）二、九二一時間（六〇・四%）、乳牛飼養管理労働一、一四三時間（三三・八%）

父…………（会計）
本人…………稻作、乳牛飼育（飼料生産と利用を含む）
本人の妻…………乳牛飼育（飼料生産と利用を含む）

家族労働の構成および雇庸労力は第一表の通りです。本人は小学校高等科卒後、県経営伝習農場卒、父は村議、共済組合長等をやっている関係で經營はすべて本人にまかせられている。祖父は隠居（家族は祖父、両親、本人、妻、本人の妹弟）なお本人は鳥川酪農研究会長で酪農の推進力となつている。

月別の労働分配上最大のピークを形成するのは、水田裏作としての牧草刈取りと田植えに至るまでの期間で、牧草の刈取り、乾草の調整ならびに田起こしの機械化（た

つており、労働配分は稻作部門が一、九三〇時間、酪農部門が一、九一〇・五時間で、労働の主柱をなしている。

(2) 経営面積及び耕地利用状況

ラスあと地が問題であったが、八馬力の自動耕耘機の利用等によって省力化を進めてきた。乳牛の飼養管理については、とくに省力設備はないが、牛尿の利用、厩肥の利用は比較的手間のかからない構造となつて

するのは、水田裏作としての牧草刈取りと田植えに至るまでの期間で、牧草の刈取り、乾草の調整ならびに田起こしの機械化（たとえば、牧草刈取機の導入が出来なかつたので、近くの農家より借りて使用）による解決が要請されている。

ントコーンとそのあと作にかぶを作付け利
用している。

第3表 耕 地 利 用 状 況

作物	耕種	作物	作付面積		生産量	10%当収量	備考
			水田	畑			
作物	耕種	水稲	120	—	5,760	480	
		大麦	15	—	743	495	
		小麦	—	—	336	480	青刈デントコーン間作
		馬鈴薯	7	—	3,200	3,560	飼料畑間作
		そ菜類	—	9	3,500	1,750	
		果樹(プラム)	—	20	2,000	2,000	
作物	飼料	水田裏作牧草	89.5	—	38,400	4,300	{イタリアンライグラス 単播・乾草}
		輪換畑作牧草等	—	18	18,000	10,000	{イタリアンライグラス 混播・埋草}
			—	5	1,600	3,000	レシング
			—	5	4,000	8,000	デントコーン
		畑作牧草等	—	30	牧草 28,000	9,300	カブ
			69	17	青刈デント 7,040	4,120	
作物		果樹園牧草	—	22	カブ 18,000	8,200	
			—	10	2,000	2,000	
合計		231.5	146.0	—	—	—	

二 乳牛及び牛

るが、乳牛の月別搾乳期間と搾乳量は第四表の通りである。

(三) 家畜頭數

ら一一七%となつており七〇・五%の占有率である。

ントコーンとそのあと作にかぶを作付け利
用している。

ら一一七%となつており七〇・五%の占有率である。

二号牛は四才、体重五七三
キ、これまで産仔は牡一頭、
牝一頭、一産目の乳量は二七
石、二産目は検定中。（血統
登録牛）

三号牛は五才、産仔は牡一頭、牡一頭で産乳量は第一産で三〇〇石、第二産で三五〇石、第三産は現在検定中。（血統第三産は現在検定中。（血統登録牛）

四、五産目、乳量は五〇日目で最高乳量一
目二七キロ生産。

以上のよう^に牛の産乳成績は飼料自給度の高い割合に優良で、繁殖成績も平均二・六回の種付けで受胎し、空胎などなく、わめて優秀な成績をもつてゐる。

第四表の月別産乳成績表で
もみられる通り、涸乳後二カ

月以内には、次の分娩が行なわれている。
なお軽度の乳房炎に罹ったことがある。牛の飼養管理については、よく手が届いて

いる。

月以内には、次の分娩が行なわれている。
なお軽度の乳房炎に罹ったことがある。牛の飼養管理については、よく手が届いて

(四) 飼料の生産、給与等について

販売乳代に対する購入飼料の割合は一

ヶ月と三六年八月～九月の間に九九五・六
敷藁は、稻藁が主体で厩肥の生産にはと
くに注意を払い、切り返しもよく行なって
いる。

(三) 廐肥の利用状況

仔牛に対する哺乳量は三五年一〇月～一
月を給与した。

七%に当たり、九人家族の一人一日当たり
乳量は約一キロとなる。これは全国の場合と
比較してきわめて自家消費量が多いことと
なるが、この内には親戚、隣家への供与量
も含まれている。

牛乳の利用状況としては、年三、二四〇
キロを自家利用した。これは搾乳量の一八・
七%に当たり、九人家族の一人一日当たり
乳量は約一キロとなる。これは全国の場合と
比較してきわめて自家消費量が多いことと
なるが、この内には親戚、隣家への供与量
も含まれている。

(四) 飼料の月別給与表

牛乳の利用状況としては、年三、二四〇
キロを自家利用した。これは搾乳量の一八・
七%に当たり、九人家族の一人一日当たり
乳量は約一キロとなる。これは全国の場合と
比較してきわめて自家消費量が多いことと
なるが、この内には親戚、隣家への供与量
も含まれている。

八・〇%となっている。購入飼料は、フスマ
一、三八〇キロ、大豆粕一五二・五キロ、配合飼
料八四〇キロで、他にグラスサイレージ用と
して糖蜜を三キロとコロイカル五〇キロを給
与、合計七八、三四五円となっている。

自給飼料は、一五、三六二円の購入肥料料
を施用することによって、一一七、四四〇
円の生産をあげている。つまり、自給飼料
一〇〇キロ生産に約一三円の肥料費を支出し
ている。この支出額がきわめて少ないのは
牛糞、厩肥の利用が十分行なわれているか
らであるとみられる。

飼料給与の月別量をみると第五表の通り
で、青草給与期の夏季は混播牧草中心の給
与であり、冬季はサイレージと乾草中心の
給与体系となっている形の年間平衡が行な
われている。濃厚飼料は乳量によってその
量を決定し給与している。

(五) 労力

乳牛の飼養管理作業に関する労力調整と
しては、むしろ農繁期との関係で、その頃
になると毎日行なう三〇分位の運動をやめ
ている。

(六) 経営内容の変化

この農家は乳牛飼養の経過は古い。しか
し、以前は養蚕十乳牛一頭の形態であった
が、水田十乳牛三～四頭へと進んで來た過
程では、畑地に行なって來た飼料生産では
不足して来て水田裏作としての飼料作を行
栽培を行ない、同時に表作の安全増収へと

第4表 月別搾乳期間と搾乳量

乳牛番号	35.10	11	12	36.1	2	3	4	5	6	7	8	9
1												
2												
3												
4												
搾乳量(キロ)	1,967	1,702	1,383	1,414	1,302	1,578	1,603	1,448	477	356	1,809	2,339

第5表 月別飼料給与表

種類	年月	35.10	11	12	36.1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
イタリアン+レンゲサイレージ		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	14,240
青刈デントサイレージ	700	700	800	1,000	1,000	1,500	1,500	—	—	—	—	—	—	7,200
イタリアンライ(生)	—	—	—	—	—	—	960	4,000	—	—	—	—	—	4,960
ク(乾)	400	450	440	440	440	430	—	—	200	200	—	—	—	3,440
混播牧草(生)	1,500	—	—	—	—	—	7,000	7,500	8,000	8,500	—	—	—	43,000
青刈デント(生)	—	—	—	—	—	—	—	—	720	720	—	—	—	1,440
カ野大豆	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,240
大豆配合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	600
合飼料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,100
コロイカル(2.5kg入袋)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,380
糖	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	840
		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	20袋
		kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	kg	3

向い一つある。農業粗収益のうち三五年では水稻三三%、酪農五〇%と酪農の比重が高められてきた。

(乙) 稲作と裏作としての飼料作との関係

●水田裏作による生産飼料は、サイレージ及び乾草原料として生草刈取機の導入を行ない、田植え直前の労働調整をはかった。稲作の方法が問題となつたが、六月下旬の田植えを六月上旬に早めた。

- 養蚕十水田十乳牛一頭の形態のときは年雇が一人あつたが、現在の経営では労働のピークも激しくなく楽な農作業となつて得るようになった。
- 養蚕十水田十乳牛一頭の形態のときは年雇が一人あつたが、現在の経営では労働のピークも激しくなく楽な農作業となつて得るようになった。

四 酪農による収入と支出

本人の祖父の代から乳牛飼養を行なつて来たが、三~四頭にまでもつて来、水田にイタリアンライグラスを作付けし始めたのは本人である。

本人は農研や酪青連の指導者としてグループの研究活動を盛り上げつゝあるが、福島市に近く労働力の需要が極めて高いため

に貢献に走るものも少くない実情から普及に伸び悩みがみられる。したがつて、比較的零細な水田中心の経営から、飼料作を十分取入れたこのよだな酪農が身近なモデルとして認識されれば、極めて明るい普及の見透しがでてくるものと確信する。

今後の方向としては搾乳牛を四~五頭の状態に止め、それ以上の多頭化の方向はとらない考え方のようである。それは労力の配分調整と飼料生産の増大に自信が持てないからだといふ。たしかに現状においても労力面ではかなりの無理が心配されるところであるから、現況の内容的な充実を図り、能力の高い牛に切り替えを順次していくことが必要であろう。また飼料生産の面でも今後さらに增收が工夫改善される点も少なくないし、機械化を行ない、自給飼料への省力有効利用を推進していくことが一つの課題だろう。

第6表 経営の収支

収入の部 (現金収入のみ)

区分		粗収益額 数量 kg	販売額 円	商品化率 %	備考
水	稻	5,760	384,000	280,000	72.8 家計仕向量 24%
大	麦	1,230	40,590	—	経営内仕向量 89.5%
馬	薯	2,100	18,900	5,400	家計仕向量 60%
鈴	麦	400	14,679	—	家計仕向量 98.5%
小					
果樹	(ブラム)	1,500	90,000	60,000	66.7 家計仕向量 100%
野	菜	1,400	14,000	—	家計仕向量 7.6%
	牛	17,378	504,350	436,830	86.7 牝 2頭 牛 1頭
酪農	仔	3頭	135,000	135,000	100
鶏	牛	2,052	18,468	1,800	9.7 家計仕向量 90.3%
小	卵	—	—	—	
計		—	1,219,987	919,030	現金収入率 75%
農収外入	公職報酬	—	100,000	—	父は村議、共済組合長、集乳所委託謝礼
合	計	—	1,319,987	—	

- 注) 1) 農業収入中に占める水稻収入の比 31.5%
 2) 農業収入中に占める酪農収入の比 52.4%
 3) なお、販売額に占める酪農収入は 62.2% で水稻収入は 30.5%

支出の部 (現金支出のみ)

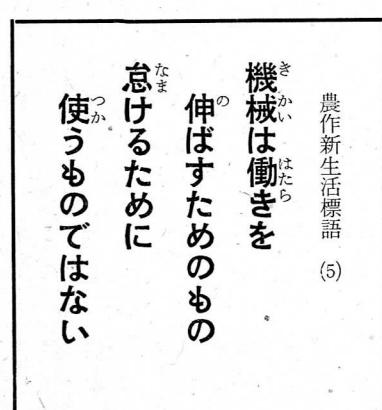
費目	酪農	水稻	合計	備考
肥料費	15,362	25,038	40,400	購入飼料のみ
飼料費	78,345	—	78,345	
農用薬剤費	—	9,600	9,600	
その他資材費	5,500	—	5,500	
光熱費	4,400	5,760	10,160	
燃費	10,500	—	10,500	
畜衛生費	10,000	2,400	12,400	
保険等共済費	1,500	—	1,500	
その他補助材料費	—			
賃料	700	—	700	乾草刈取機借用
修理費	4,700	2,600	7,300	
労働費	4,500	7,500	12,000	臨時雇賃
販売費	10,000	—	10,000	集乳所負担分
借入金	—			
利息	—		—	
合計	145,507	52,898	198,405	

収支差引 (現金収支)

	酪農	水稻
現金	571,830	280,000
現金	145,507	52,898
差引	426,323	227,102

怠けるために
使うものではない
機械は働きを
伸ばすためのもの

農作新生活標語 (5)



粗飼料、濃厚飼料の自給生産計画とその実施成績

地目	圃場番号	年次	飼料作物名	作付面積	播種量 (10アール当り)	播種法	施肥量 (10アール当り)	10アール当り 収量	総収量	耕地および草地の利用期間											
										1月上中下	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水田	1	35春 同秋 36春	レンゲ・イタリアン 水 稲	31 31	(アール) レンゲ 2升 イタリアン 0.5k	撒	燃焼30 尿素10kg	4,800 ^(k)	15000 ^(k)	○								△			
							燃焼30 尿素5	4810	15000	○								△			
同	6	35春 同秋 36春	イタリアン 水 稲	3.5 3.5	0.75k 0.7 k	撒		4000	1,200	○								△			
							過石5 尿素10	4000	1,200	○								△			
同	7	35春 同秋 36春	レンゲ・イタリアン 水 稲	10 10	レンゲ 2升 イタリアン 0.5k	撒	燃焼30 尿素Q4	5000	5000	○								△			
							牛尿2000	4800	4,800	○							△				
同	5	35春 同秋 36春	収実大麦 水 稲	25 25	8升 7.5k	不整地播種	堆肥1500 配合50 穀安60 過石30 牛尿3000	785	1,167	○								△			
							撒	4000	10,000	○							△				
同	3	35春 同秋 36春	レンゲ・イタリアン 水 稲	15 15	レンゲ 2升 イタリアン 0.5k	撒	燃焼30 牛尿600	4,800	7,200	○								△			
							不整地播種	堆肥1900 配合45	595	892	○						△				
同	4	35春 同秋 36春	イタリアン 水 稲	8 8	1.6k	撒	牛尿700 尿素20	4000	3,200	○							△				
							撒	牛尿1000 尿素20	4000	3,200	○						△				
同	8	35春 同秋 36春	イタリアン 水 稲	5 5	1.0k	撒	穀安18 牛尿1000	4000	2,000	○							△				
							撒	尿素7 牛尿1000	4000	2,000	○						△				
同	10	35春 同秋 36春	イタリアン 水 稲	7 7	1.4k	撒	穀安21	4000	2,800	○							△				
							撒	尿素20	4000	2,800	○						△				
同	9	35春 同秋 36春	レンゲ・イタリアン 水 稲	7.5 7.5	レンゲ 1.6升 イタリアン 0.4k	撒	過石20 牛尿400	4,800	3,840	○							△				
							条	堆肥1000 配合30	480	424	○						△				

地目	圃場番号	年次	飼料作物名	作付面積	播種量 (10アール当り)	播種法	施肥量 (10アール当り)	10アール当り 収量	総収量	耕地および草地の利用期間											
										1月上中下	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
畠	18	35春 同秋 36春	青刈デントコーン 紫カブア 青刈デントコーン	3 3 3	0.6升 0.1升 1升	条 同 同	穀安7 過石3 堆肥2 ^(k) 配合10 堆肥300 牛尿500	9000 ^(k) 8000 4800	1800 ^(k) 2400 1440	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
同	11	35春 同秋 36春	果樹下草牧草 同 同	100 100 100	オーチャード ラティグローバー 赤グローバー	混				1800		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	14	35春 同秋 36春	永年牧草 同 同	13 13 13	オーチャード ラティグローバー ライグラス 赤グローバー	混	過石35 堆加20 牛尿1000	10000	12000		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	14	35春 同秋 36春	青刈デントコーン 紫カブア 青刈デントコーン	5 5 5	1升 0.1升 1.5升	条	穀安14 過石4 堆加3 堆肥700 尿素10	6000 8000 3200	3000 4000 1600		△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○
同	15	35春 同秋 36春	永年牧草 永年牧草	5 5	オーチャード 赤グローバー・ヘニアリ	混	燃焼25 堆加10	8000	4000		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	16	35春 同秋 36春	永年牧草 永年牧草	25 25			燃焼60 堆加30 牛尿1000	10000	22000		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	16	35春 同秋 36春	青刈デントコーン 紫カブア 青刈デントコーン	5 5 5	1.5升 0.15升 1.5升	条 同 同	過石10 尿素10	4800 8000 4800	2400 4000 2400		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	17	35春 同秋 36春	青刈デントコーン 紫カブア 牧草	5 5 5	3升 0.15升 0.15升	条 同 撒	尿素20 牛尿500 過石10 尿素10 堆肥2000 配合30	4000 8000 10000	2000 4000 5000		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
同	12	35春 同夏 36春	紫カブア 青刈トマト耕種間作	11 11	0.3升 2升 馬鈴薯2袋	条 同	牛尿1000 配合30 堆肥1500 尿素20 配合70	8000 3200 2000	8000 3200 2000		△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

△播種期 ○収穫期 ○～○刈取期(秋繁殖期)